



顔晴る企業紹介 野木町商工会

中野英樹代表と自社所有の「猫バス」。可愛いデザインで人目を惹き子どもたちにも大人気。

商工会には自社の事業を通じて地域に貢献したいと「顔晴る」会員さんが多くいらつしゃいます。今回は、野木町にある中野自動車さんの中野英樹代表（以下、代表）にこれまでの歩みや事業にかける想いなどをお伺いしました。

◇はじめに事業の概要をお伺いします

当店は「お客様の笑顔が第一」を経営理念に掲げ、新車・中古車・登録（届出）済未使用車など、様々な車を取り扱っています。お客様の好みやライフスタイルなどを考慮して、丁寧にお話を伺い、あなたにぴったりの車に出会えるよう最善を尽くします。出張買い取りにも力を入れているほか、修理、钣金塗装、カスタムなども承っており、多くのお客様からご好評をいただいています。

（次ページへ続く）



中野自動車（オフィスナカノ）の店舗前看板

中野自動車

代表 中野 英樹

住所：下都賀郡野木町丸林673-17
電話：0280-333366

CONTENTS

- ・顔晴る企業紹介（野木町商工会）…………… 1・2
- ・伴走支援の現場から（塩谷町商工会）…………… 3
- ・経営力再構築伴走支援セミナー報告会…………… 4
- ・商工連臨時総会開催…………… 5
- ・3機関連携の覚書調印式…………… 6
- ・県女性連主張発表会…………… 7
- ・商工会からこんにちは（野木町商工会）…………… 8



中野英樹 代表

■前職は隣県の教習所教官。野木町での開業を決意

中野自動車は、野木町と茨城県古河市の境界地域に位置しており、「G-T-Rよりも速く!!」車の出張買取承ります」という店舗の看板(表紙右下)が目印だ。「この看板は持続化補助金で作ったんですよ」と代表は笑顔をのぞかせた。

群馬県出身の代表は、23歳のときに茨城県古河市で教習所の教官になった。その後、好きな車に携わるなかで、自動車販売店の経営を志す。結婚を機に野木町に移住した代表はこの地で開業することを決意し、現在に至る。

「当時の教習所の社長の後押し

が大きかった。社長や当時の仲間との絆は今も続き、仕事の依頼を頂いています。本当にありがたいです。」と語る。

■お客様の期待に応えたい

お客様の希望を丁寧に向うことを心掛け、在庫にない車や、珍しい車は、全国各地で開催されるオークションに赴き、最善を尽くす。代表は「故障が少なく、頑丈で長く乗れる車をプロの目線で見定めることが重要」と語る。元教習所教官というキャリアを活かして、出張ペーパードライバークラスも行っており、運転に不安を持つお客様からも好評を得ている。

評判は口コミなどで広がり、多くのお客様が来店されるお店となった。「ありがたい、また来るね」の一言で頑張れます。お客様の皆さんが大きくなって、車が欲しいと来店されたときは感激しました」と話す。

■商工会青年部の加入で地域に溶け込む

約10年前、教習所時代の教え子から勧められたのをきっかけに、商工会に加入した。早速、



いつもイベントを盛り上げてくれるスタッフ

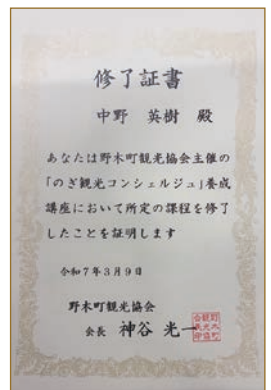
青年部にも入部したものの、町外出身ということもあり戸惑いがあったが、当時の青年部長の配慮もあり輪に溶け込むことができた。以来、イベント運営などの活動に積極的に取り組むようになり、昨年は、野木町商工会主催の「きらりフェスタ」のために購入した4トトラックの荷台をイベントステージとして提供したほか、自前のキッチンカーで販売したかき氷などは、子供たちに大人気だった。かき氷のノウハウは、専門の人からアドバイスを受けて何度も練習を重ねたという。本業以外の活動にもチャレンジを続け、50代になった現在は、商工会の理事に就任している。

■野木町の発展のために尽力

地域貢献活動として、小学校や幼稚園で交通安全教育を行っている。自動車を使用しながら車の死角を説明する際は、要点を短く、面白おかしく話すことで子供たちの印象に残るように努めている。元教習所教官ならではの取り組みだ。

また、野木町の広報活動にも熱心だ。町外の方にも野木町の良さを伝えたいとの考えから、小山市のラジオ局の番組「おーラジ」に出演した際には、自社のPRではなく、野木町の他の企業の宣伝を積極的に行っている。

さらに、町観光協会主催の「のぎ観光コンシェルジュ」研修を修了した。福をもたらすフクロウが住む「野木神社」、国の重要文化財で、明治から昭和にかけて赤煉瓦を生産していた「野木町煉瓦窯」など、町の歴史や魅力を学び直すことができ、



▶「のぎ観光コンシェルジュ」養成講座の修了証書



▶「おーラジ」出演時にはスタッフと共に野木町をPRするオリジナルTシャツを着用

一層この町の魅力を伝えたいという気持ちが強くなったという。「野木町を盛り上げたい」その一心で、仕事にも、イベントにも、町の広報活動にも全力投球。「地域の方々が楽しめるようなイベントを自社で開催することが当面の目標です」と瞳を輝かせながら語る中野代表。野木町に咲き誇るひまわりを見たときのように、晴れやかで明るい気持ちになった。

伴走支援の現場から

塩谷町

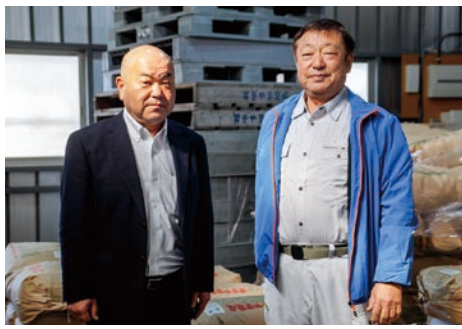
有機・特裁 すぎやま農場

住所 塩谷郡塩谷町内742
TEL 0287(46)0741

塩谷町商工会員の「すぎやま農場」と石下事務局長との信頼関係は25年前から続いている。農作物の生産が主でありながら、商工会に長きにわたり加入されている理由とは。そして、石下事務局長が支援にあたるうえで大切にしていることは何か。持続化補助金の申請支援を交えながら話を伺った。

■有機栽培・特別栽培での生産により圃場の環境保全に尽力

すぎやま農場の杉山場長は、「農家が米を作るのではない。田んぼに住む生き物たちとの共同関係で米が作られる」を心に刻み、2007年の作付け分から化学肥料や農薬を使用しない有機栽培・特別栽培に取り組んでいる。杉山場長が生産した、



(左) 商工会の石下事務局長 (右) すぎやま農場の杉山修一場長

品質がよくうまみあふれるお米は全国で評判を呼び、町の「しおやブランド」に認定されているほか、県外の有名料理店や酒蔵などと取引している。

また、稲作のほか麦、大豆、蕎麦の栽培面積も増やし、先進的な有機農業者として県の「有機農業推進アドバイザー」にも登録。昨年には、農業簿記ソフトメーカーが主催する全国規模のコンテストで「SDGs農業賞」を受賞するなど、全国各地から視察者が訪れる、注目の農業経営者だ。

■巡回支援を積み重ね信頼関係を構築

杉山場長は、「農業の枠組みでは生産から出荷までしか携われない。販路を開拓して直接、消費者の意見を聞き、栽培に活かしたい」と考えていたところ、

知人の商工会員から紹介されたことがきっかけとなり商工会に加入した。

一方、石下事務局長は塩谷町商工会に着任した25年前から、会員のために何ができるかを考え、相談の一つ一つに対応してきた。真摯に、そして懸命に対応する姿勢と積み重ねが評判となり、今では「それは石下さんに相談だよ」と、会員が他の会員の案件を持ち込んでくれるようになった。「一番大切なのは、親身になって話を聞き、会員さんの事業内容と想いを知ること。これは年月を経た今も変わらない」と語る。杉山場長は「塩谷町の商工会員さんは、昔から横のつながりが強い。私も石下さんを通じて多くの会員さんと知り合い、情報交換ができるようになった」と応えた。

■場長の想いを具現化し、販路を開拓

杉山場長は、消費者の「小さいサイズのお米が欲しい」というニーズを把握していたが、当時の設備では2キロ以上でないと真空パッケージができなかった。そこで、米1合から梱包できる真空包装機を導入したいと考え、持続化補助金の申請を決めた。

相談を受けた石下事務局長



出荷を待つ「いのちの壺」という有機栽培の米。お米本来の旨味が味わえる。



持続化補助金を活用して導入した真空包装機

は、消費者のニーズに応えたいという杉山場長のアイデアが「マーケット・イン」の考えだと理解した。エンドユーザーの需要動向を記載するなど、お米に詳しくない補助金審査員にも場長の想いが伝わる申請書になるよう、アドバイスを重ねた。後日、杉山場長の奥様が「石下さんが支援してくれた申請書を

見て、お父さんの考えがようやく理解できた」と話されたエピソードを聞いたときは嬉しかったと、石下事務局長と杉山場長は顔を見合わせながら笑った。

無事に採択され、杉山場長は真空包装機を導入、念願だった小サイズ・小ロットの商品を完成させた。一人暮らしの方が気軽に購入でき、贈答用にも適しているなど、多くのニーズに応えることが可能になり、東京の有名なセレクトショップで販売が決まるなど、新たな販路を開拓することができた。

■地域とともに生きる人のため、事業所の持続的発展のために

今後について杉山場長は、「これからも安全・安心な商品づくりに努めていく。将来的には、AI等を駆使して業務効率化を図り、空いた時間で消費者と田んぼでお茶でも飲みながら交流をしていきたい。それが今の夢ですね」と穏やかな表情で語った。

すぎやま農場は、環境保全を重視した「次世代につなぐ農業」を目指している。商工会も地域の人達を繋ぎながら、会員企業の実現や持続的な発展のため、今日も一つ一つ相談に応えていく。

経営力再構築伴走支援 セミナー報告会を開催

2月7日、商工連と職員協議会は共催で「経営力再構築伴走支援セミナー」の報告会を宇都宮市内で開催し、8名の職員が支援事例を発表した。

「経営力再構築伴走支援」とは、経営者と支援者が丁寧な「対話と傾聴」を繰り返すことで、両者が「本質的な課題」に



報告会終了後、講師の藤本孝幸氏と宮本知子氏（前列中央、左から2番目）とセミナー参加者で記念撮影を行った（発表者の氏名は紙面下記に記載）

気づき、納得（腹落ち）したうえで課題解決を図るという、中小企業庁が提示している支援モデルである。約半年間に渡り7回開催されたセミナーでは、座

学と支援対象とした事業所への支援実践を繰り返し、企業力アップシート（事業計画書）を作成した。

報告会で、喜連川の本間主事は、既存サービスのブラッシュアップを支援し依頼が増加したこと。小山市おもいがわの藤橋主任は、広告宣伝の強化を提案したほか、新企画の実現に向けてターゲット層の明確化を支援したこと。益子町の羽石主事は、SNSを活用したお店の認知度向上や情報発信を支援したこと。壬生町の堀田主任は、

開業予定の事業者のために徹底的な商圏分析や競合店調査を行い、経営判断に寄与したこと。那須烏山の中島主事は、適切なサービス提供価格を提案したことで、売り上げが増加したと。野木町の田中主任は、店頭ディスプレイやPOP等の工夫により入店しやすい店作りを支援したこと。佐野市あその野澤主任は、事業者の業務に同行することでより実務に即した課題解決案を提示できたこと。下野市の吉原主任は、居酒屋を営む事業者ランチ営業の導入を提案し、認知度と売上額アップにつながったことなどを発表した。

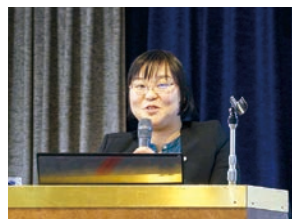
指導にあたった中小企業診断士の藤本氏は「支援事例を積み重ねることで、支援スキルだけでなく表現力や人間力向上に繋がる」、同じく宮本氏は「AIを上手く活用し、人間にしかできない温度のある支援が重要」と講評した。報告会に参加した多くの商工会職員は、経営支援のノウハウや経験等を共有することで新たな気づきを得ようと、それぞれの発表に聞き入っていた。

セミナーで学んだ手法を実践し、その成果を発表する8名の商工会職員

（※左から発表順）



喜連川
本間龍主事



小山市おもいがわ
藤橋洋子主任



益子町
羽石若菜主事



壬生町
堀田有輝主任



那須烏山
中島翼主事



野木町
田中麻美主任



佐野市あそ
野澤慎一主任



下野市
吉原友希主任

商工会法施行65周年を迎え 課題解決への決意を新たに

商工連
臨時総会



『価格転嫁推進事業の推進に尽力』と挨拶する
薄井正明商工連会長

令和7年度事業計画・予算を決定

『とちぎ中小企業応援隊事業』の実施により 会員企業へのきめ細やかな支援を推進

3月26日、宇都宮市のホテル東日本宇都宮で来賓に商工会を支援する会会長の木村県議会議員、梁木県経営支援課長を迎え、臨時総会を開催した。

冒頭、商工連の薄井正明会長は「県内33商工会と共に、会員等への各支援事業を強力に推進していく。特に、信用保証協会、よろず支援拠点と商工会の3機関が強みを活かしてワンストップで経営支援

する『とちぎ中小企業応援隊事業』や、県の支援を受け実施する『価格転嫁推進事業』等に尽力していく。また、今年には商工会法施行65周年の節目の年を迎えるにあたり、中小企業・小規模事業者が直面する重要課題の解決に向けた決意を新たにしたい」と挨拶した。

令和7年度 重点事項

組織強化、人材育成により商工会力の再構築を図り、企業支援の強化・充実を目指す。

1、企業支援の強化・充実

- (1) 経営発達支援事業等の推進
- ① 経営計画策定支援、実行

支援

- ② 需要開拓・販路開拓事業の支援

- ③ 持続化補助金、事業再構築補助金、経営革新計画策定等の推進

- ④ 他の支援機関との連携による経営支援の推進

- ⑤ 価格転嫁対策支援

- ⑥ 事業承継支援

- ⑦ 起業、創業支援

- (2) 会員向けデジタルサービスの推進によるDX支援

- ① 金融サービスと情報技術を結びつけた記帳目計化の推進

- ② ホームページ作成サービス「グーペ」等の活用推進

- (3) 中小企業・小規模事業者のリスクマネジメント

- ① 事業継続力強化計画の策定支援

- ② 経営者等のリスクファイナンスとしての共済制度の普及・推進

2、商工会の組織強化

- (1) 会員増強運動の推進

- (2) 商工会運営の適正化に向けた巡回指導の実施

- (3) 支援力強化に向けた他の支援機関との連携

4、中小企業・小規模事業者の経営環境整備に向けた要望活動等の実施

- (1) 小規模事業者対策に関する大会決議と各種要望活動の実施

- (2) 小規模事業者の負担軽減に関する各種要望の実施



議長を務める郡司岳尊会長（塩谷町）

県商工会連合会と県信用保証協会、県よろず支援拠点の3機関が連携

「とちぎ中小企業応援隊」が発足 ぜひ最寄りの商工会にご相談を



左から、県信用保証協会 茂呂会長（当時）、商工連薄井会長、よろず支援拠点の須田チーフコーディネーター

1月16日、県商工会連合会（県内33商工会）は県信用保証協会、県よろず支援拠点と共に、3機関で連携して中小企業・小規模事業者を支援するため、覚書を締結し、「とちぎ中小企業応援隊」を発足した。

各機関の互いの持ち味を發揮し、事業者の経営力の維持・向上や創業者の輩出を推進し、地域経済の活性化に繋げる。

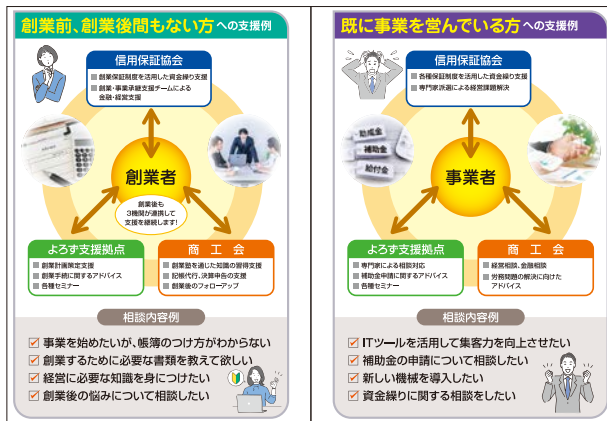
コロナ禍以降の事業者を取り巻く経営環境は、原材料費高騰、人件費上昇、人手不足、デジタル化対応等の諸課題に加え、コロナ関連融資の返済本格化、そして後継者問

題の顕在化等、事業者の抱える悩みは複雑かつ深刻化している。県信用保証協会では小規模事業者を中心とした代位弁済の増加、県よろず支援拠点では廃業相談件数の増加、商工会においても事業者への伴走支援に注力しているが、廃業等に伴う会員数の減少等が顕著となっている。こうした背景から、3機関が総力戦で臨まなければという気運が一気に高まった。

事業の一環として当応援隊は「経営課題解決合同出張相談会」を1月28日には県南地区を対象に大平町商工会にて、1月29日には県北地区を対象に那須町商工会にて、1月31日には県央地区を対象に益子町商工会にて開催した。相談会には計14事業者から申込があり、課題解決に向けた支援が行われた。相談者からは「今後取り組むべき具体的な道筋が

示されて良かった。気持ちも軽くなった」との意見をいただいている。

令和7年度も合同出張相談会の定期的な開催や、個別対応での支援を予定している。各種経営課題を抱えている事業者の方は、ぜひ最寄りの商工会にご相談をいただきたい。



経営相談
創業支援
資金繰り

より力強い経営サポートを！
とちぎ中小企業応援隊

3つの機関が連携して皆様の成長と発展を支えます

- 栃木県商工会連合会
- 栃木県よろず支援拠点
- 栃木県信用保証協会

商工会窓口にあるパンフレット

3機関の連携のイメージ

小規模事業者持続化補助金のご案内

申請受付開始：令和7年5月1日(木) (予定) ※
申請受付締切：令和7年6月13日(金) (予定) ※

小規模事業者持続化補助金（＝持続化補助金）とは、小規模事業者が自ら策定した経営計画に基づく、**販路開拓等の取組や、販路開拓等と併せて行う業務効率化（生産性向上）の取組**を支援する制度です。申請をお考えの方は、最寄りの商工会がサポートいたしますので、ご相談ください。

1. 対象者 商工会地区で事業を営む下記に該当する方

商業・サービス業（宿泊業・娯楽業除く）	常時使用する従業員の数 5人以下
宿泊業・娯楽業	常時使用する従業員の数 20人以下
製造業・その他	常時使用する従業員の数 20人以下

2. 補助上限額 50万円

インボイス特例	50万円上乗せ※	※各特例の要件を満たす場合に限り
貸金上げ特例	150万円上乗せ※	
上記特例の要件をともに満たす事業者	200万円上乗せ※	

3. 補助率

2 / 3
(貸金引上げ特例のうち赤字事業者は 3 / 4)

4. その他

※申請受付開始・締切日は変更される場合があります。

県女性連の主張発表会
谷内直子副部長（うつのみや市）が最優秀賞



左から、湯津上の松澤常任委員（当時）、岩舟町の相良部長、最優秀賞を受賞したうつのみや市の谷内副部長、山田県女性連会長、野木町の大森常任委員、矢板市の阿部副部長

2月12日、県女性連（山田祐子会長）の主張発表会が、宇都宮市文化会館小ホールにて開催された。県内の各ブロックから選抜された5人が出場し、うつのみや市商工会女性部副部長の谷内直子さんが最優秀賞を受賞した。

谷内副部長は「コロナ禍からの新たな道」と題し、制限が多い中でも工夫して地域団体や住民の方と協力して清掃活動を実施したことや、WEBを活用することで研修会等が開催できたことで、改めて人との繋がりを実感した経験を紹介。コロナに

負けてはならないという想いを一層強くしたことが原動力となり、令和4年には商工会地域の特産品であるゆずを活かした地域おこし事業を開始し、最近では介護施設への訪問事業も始めるなど、女性部活動の幅が広がったことを発表した。

谷内副部長は、7月に群馬県で開催される関東ブロック大会に栃木県代表として出場する。

事業主の皆さまへ

**「賃上げ」支援助成金パッケージ
 賃金引き上げの支援策のご案内**



厚生労働省は事業主の皆さまの賃上げを支援しています。業務改善助成金、キャリアアップ助成金（賃金規程等改定コース）、働き方改革推進支援助成金等、各種支援策を設けています。詳細は上記QRコードまたは、厚生労働省HP：「賃上げ」支援助成金パッケージを検索いただき、ご覧ください。

中小企業省力化投資補助金のご案内

詳細はこちら
 から▶



人手不足に悩む中小企業等に対して、個別の現場や事業内容等に合わせた人手不足解消に効果があるデジタル技術等を活用した設備を導入するための経費の一部を補助するものです。省力化投資を促進し、中小企業等の付加価値額や生産性向上を図り、賃上げにつなげることを目的とした補助金です。詳細は、右上のQRコードからご覧ください。

一般型（公募回制）

中小企業などが省力化効果のあるオーダーメイド・セミオーダーメイド性のある設備やシステムなどを導入し、「労働生産性 年平均成長率4%向上」を目指す事業計画に取り組むものが対象です。

従業員数	補助率※	補助上限額	大幅な賃上げを行う場合
5名以下	中小企業 1/2	750万円	1,000万円
6~20名		1,500万円	2,000万円
21~50名	小規模・再生 2/3	3,000万円	4,000万円
51~100名		5,000万円	6,500万円
101名以上		8,000万円	1億円

※補助率：補助金額が1500万円までは1/2もしくは2/3。補助金額が1500万円を超える部分は1/3。また、(特例措置)最低賃金引き上げ特例は、補助率を2/3に引き上げ（小規模・再生事業者は除く）。

カタログ型（随時受付）

中小企業などが省力化製品を対象製品のリスト（カタログ）から選んで導入し、販売事業者と共同で「労働生産性 年平均成長率3%向上」を目指す事業計画に取り組むものが対象です。

従業員数	補助率	補助上限額	大幅な賃上げを行う場合
5名以下	1/2 以下	200万円	300万円
6~20名		500万円	750万円
21名以上		1,000万円	1,500万円

<お問合せ窓口> ナビダイヤル：0570-099-660 受付時間：9:30~17:30/月曜~金曜(土・日・祝日除く)

人事異動

令和7年4月1日付

◆事務局長◆

商工会 氏名 旧商工会

小山おもしろいかわ 森田賢一 小山おもしろいかわ

都賀町 青木正行 那珂川町

那珂川町 細野誠 那珂川町

那須塩原市 長岡好美 市貝町

◆事務局次長◆

商工連 渡邊裕久 商工連

市貝町 荒井一美 矢板市

高根沢町 齋藤文彦 高根沢町

商工連 小森谷孝雄 商工連

◆主査◆

西 見目剛史 氏

石 坂里美 石橋家

那須塩原市 桑原信彦 那須塩原市

◆主任◆

矢板市 土田ひろみ 那珂川町

下野市 高嶋友美 下野市

益子町 大塚文徳 商工連

茂木町 木村千加子 茂木町

壬生町 赤坂美幸 下野市

小山おもしろいかわ 篠原美幸 石橋市

塩谷町 竹内孝明 塩谷町

商工連 戸塚祐太 那須塩原市

◆主事◆

下野市 関谷耀介 下野市

うつのみや市 堀越彩美 下野市

市貝町 黒須直乃 市貝町

壬生町 黒須直乃 市貝町

石 浅野雅文 市貝町

小山おもしろいかわ 五関ひなた 石橋市

都賀町 早川涼介 都賀町

那須塩原市 益子凌空 那須塩原市

◆新任職員◆

商工会 氏名

矢板市 手塚朋希 氏

下野市 関本羽菜 氏

うつのみや市 神山和博 氏

にのみや 石川莉央 氏

芳賀町 野口愛実 氏

石橋市 宮下瞬 氏

藤岡町 小林千愛 氏

岩舟町 鈴木琉翔 氏

商工会 氏名

飯山智史 氏

鎌田結葉 氏

荒居李佳 氏

八巻航平 氏

八木沢航平 氏

星野宏斗 氏

福田日菜子 氏

個人企業経済調査のお知らせ

～6月1日現在で実施します～

国の重要な統計調査です

- 個人企業経済調査は、統計法に基づく報告義務のある統計調査（基幹統計調査）です。
- 調査対象となった方には、国が委託した民間事業者から調査票などを、5月下旬より郵送いたします。
- 調査票を受け取りましたら、インターネット又は郵送により、ご回答をお願いいたします。
- インターネット回答では、「e-Tax」で申告した「青色申告決算書」等のデータを利用して回答することができます。e-Taxで確定申告を行った事業主の方は、ぜひご利用ください。
- 個人企業経済調査により集められた回答内容は、厳重に保護されますので、安心してご回答ください。

ぜひ！ 簡単！便利！
インターネットからご回答ください。

個人企業経済調査の詳細な内容はこちら <https://www.stat.go.jp>

個人企業経済調査 検索



商工会をもっと身近に！
各地の商工会をご紹介します



前列：左から小林筆頭理事 神谷副会長 寺内会長
鈴木副会長
後列：左から穂山一般職員 田中主任 田中主査
石渡局長 遠藤課長

野木町商工会

商工会からこんにちは

当商工会では、国の融資制度や野木町独自の利子補給制度などを活用しながら、事業者の資金繰りや売上向上などの経営課題に対して重点的に支援します。

また、今年度も野木町ひまわりフェスティバルの協力や、11月には「第3回商工会キラリフェスタ」を主催することで、駅周辺の活性化、地域経済の発展、郷土愛の醸成、ひいては町の魅力発信による当町への移住定住促進を目指してまいります。

昨年、当商工会は設立60周年の節目を迎えました。記念に作成したキャラクター「ひまの」によるPR活動や、HP「のぎイロ」の更なる充実

など、今後も会員企業の周知・活性化に積極的に取り組んでいきます。



野木町商工会 PRキャラクター「ひまの」(2等身ver.)

商工会では新規会員を募集しています

是非、お仲間をご紹介します。詳しくは、最寄りの商工会までご連絡ください。

